



試合中は、気迫に溢れ真剣そのものですが、普段は笑顔が似合う明るい亀山っ子です。

輝き人生

このコーナーではきりと輝きながら活躍する市民を紹介します。



お互いがいたからこそ つかめた日本一

なみき かな
並木加奈さん (和田町)
ひだか ゆい
日高結衣さん (羽若町)

しなやかなフォームから、小学生女子とは思えない力強い球を投げ込むのは、並木加奈さん(井田川小6年・スモールスポーツ少年団所属)、日高結衣さん(白川小6年・野登ベースボールクラブ所属)。2人は女子学童野球の日本一を決める「NPBガールズトーナメント2016」に「三重高虎ガールズ」(三重県代表チーム)の一員として出場し、攻撃守備にわたる活躍で、チームの優勝に大きく貢献しました。特に決勝戦での2人による投手リレーは圧巻で、その好投が日本一を大きくたぐり寄せました。

一全国大会で戦ってみて？

並木…「準決勝の愛知チーム戦で、相手の気迫に押されましたが、それでも『負けたくない!』という気持ちで挑み、何とか勝てたのが嬉

しかったんです。優勝して日本一になった時は、今まで練習してきたことが実を結び自信ができました。」
日高…「優勝候補の愛知チーム戦に、ピッチャーで出場して勝てた時は心から『嬉しい!』と感じました。優勝して日本一になった時は、試合を勝ち抜いてきたことの充実感と達成感で胸がいっぱいでした。」

一試合でのお互いの存在は？

並木…「同じ亀山出身の日高さんがいてくれたので、初めての全国大会でもリラックスできました。キャッチャーとして出場した試合で、ピッチャーの日高さんとコンビを組めてとても嬉しかったです。」
日高…「試合の大事な場面で、並木さんが声を掛けてくれて落ち着きました。その後は自信を持って思っきり投げることができました。」

一どんな選手になりたいですか？

並木…「いろんなポジションの守備ができて、さらにはチャンスに強いバッターになりたいです。」
日高…「コントロールとスピードを兼ね備えた、チームに信頼されるピッチャーになりたいです。」

一これからは？

並木・日高…「中学生や高校生になっても、クラブチームに所属して野球を続けたいと考えます。また、今回と同じように代表チームなどに選出されて、一緒にプレーしたいとも願っています。そして将来は、日本女子プロ野球リーグなどで活躍するとともに、女子野球日本代表チームに2人で選ばれるようになりたいです。そのためにも、もっと練習に取り組み、野球が上手くなりたいです。」



亀山市名誉市民

彫刻家 中村 晋也

作品介绍「ふるさとあい」Vol.6

「猫の子が」(平成19(2007)年制作)

「猫の子が ちょいと押さえる おち葉哉」一茶
庭先に吹き寄せられた落ち葉と無心に戯れている子猫。それを見守る一茶のやさしいまなざしが汲み取れる洒落た一句です。中村はかねてより好んで讀んでいた小林一茶の俳句を独自の解釈でとらえ、彫刻作品として表現しています。約2万句あるという一茶の俳句の中から次はどれを選ぼうかと、まさに文学と彫刻のコラボレーションを楽しんでいると言っているといいでしょう。現在は22点ですが、「50点は作りたいな」と意気込んでいます。



39cm(高さ)×29cm(幅)×18cm(奥行)

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館 [URL http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html](http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html)